

Making Chit-Chat Creative：雑談がもつ創造的側面の強化拡張

ひらめきは会議室では生まれない。 親しい友人たちとのたわいもない雑談から生まれる。

会議室に集まってアイデア出しをしようとしても、ウンウンうなるばかりで、全然いいアイデアが出ない。ついにあきらめてみんなで酒を飲みに行き、わあわあ馬鹿話をするうちに、ふと誰かがつぶやいた一言がきっかけで、思いがけずすばらしいアイデアが生み出される。そんな経験はないでしょうか。私には何度もあります。

これが「雑談」が持つ創造的側面です。

雑談がもつ創造的側面の強化拡張技術は、雑談からより多くの上質なアイデアを生み出すことを可能とするための技術です。

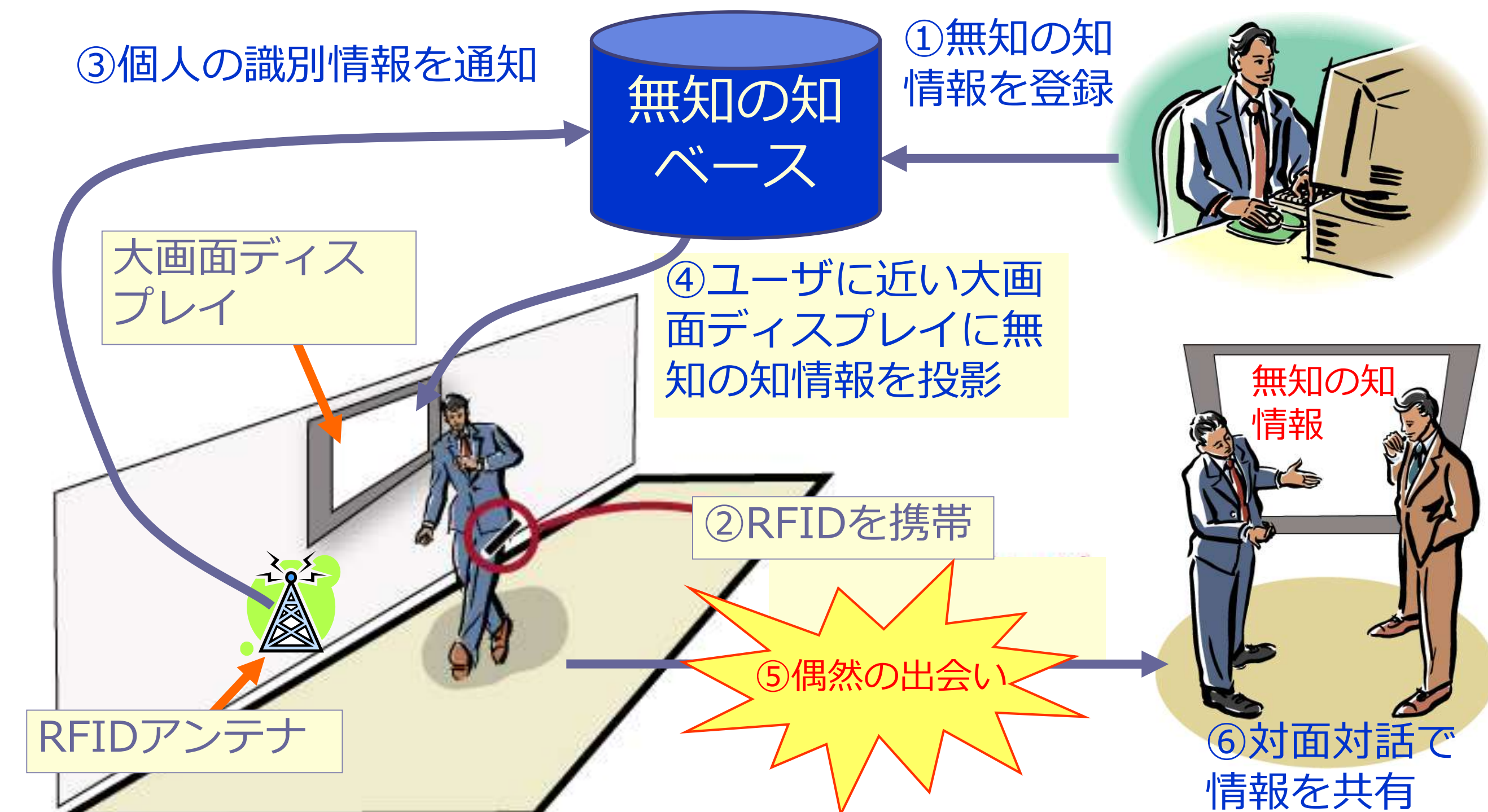
いかにして雑談の機会をつくり、そこで有意義な知識のやりとりを生じさせるかが、この技術の鍵となります。

偶発的出会いの場を知識共創の場に

社内や学校で廊下を歩いているとき、ふとすれ違った同僚や友人と立ち話をする。よくある光景です。こんな偶発的な出会いの場での雑談が、組織内における情報共有や人間関係の形成に重要な役割を果たしていることが、従来から知られています。そこで偶発的な出会いの機会を増やす取り組みが多くなされていますが、それだけではあまり意味の無い雑談が増えるだけです。偶発的な出会いの場を有意義なものにする仕掛けが必要です。

HuNeAS：単なるすれ違いを知識共有の場にするメディア

「あることについて知りたい、でも誰が知っているかわからない」とき、今あなたの横を通りすぎた人が知っているかもしれません。知りたいこと（無知の知情報）をあらかじめ登録し、RFIDタグを常時携帯することで、登録した無知の知情報を自分の影のように廊下などに設置された大型ディスプレイに提示し続けます。通りがかった人は「この人が欲しい情報は何か」をすぐに把握できるので、その場で必要な情報を提供することができます。



区分型オフィスにおける対面会話の促進

大部屋オフィスでの個人作業に集中しやすくするために、パーティションで作業者の席を区切ることがよくあります。しかしこの影響で、せっかく同じ部屋に一緒に居るにもかかわらず、それぞれ自分の席に閉じこもってしまい、作業者同士の対面コミュニケーションがほとんどないという弊害がしばしば生じます。このような区分化されたオフィスでは、パーティションを乗り越えたコミュニケーションを発生させるための仕掛けが必要です。

Traveling Café：お酌文化でパーティションを乗り越える

単に雑談をするために他者のパーティションに入り込むことは難しいものです。しかし、「コーヒーを注ぎに行く」という言い訳があれば、この困難は解消できます。Traveling Café システムは、作業者それぞれのコーヒー残量を監視し、一定時間以上空っぽの人の名前を提示し、その人にコーヒーを注ぎに行くことを促し、さらに、その近傍の人々に「隣にコーヒーが来ている」ことを通知して、周辺の人々を雑談に巻き込むシステムです。



日常的な雑談の場である食事の会話を活性化

家族との夕食、友人や同僚とのランチ、学会などでの懇親会、さらには婚活パーティなど、食事はもっとも日常的な雑談の場として機能します。しかし、そこでの会話は、必ずしも常に有効かつ活発なものとは限りません。誰かひとりだけが話しているランチの会話、知人だけで輪を作ってしまう懇親会、初対面の異性に話しかけられない婚活パーティ。食事は雑談の場づくりには有効ですが、会話の活性化にはなんらかの仕掛けを作ることが必要です。

Giant Cutlery：大皿料理を中心とする食事での会話促進

大皿料理を共食者それぞれが取り分けて食べるスタイルの食事は、会話の活性化に有効であることが知られています。しかし、各共食者が自分の料理を自分に取り取るだけであり、せっかく大皿料理を全員で共有しているにもかかわらず、大皿料理を中心とした共食者間でのインタラクションはほとんど発生しません。Giant Cutlery は、自分で自分に料理を取ろうとするとお皿の蓋が閉まってしまうシステムです。これにより、料理を互いに取り分け合う行為を強制的に発生させ、食事の会話発生を促進します。



磁石付きのトングで料理を取り分ける。

サーボモーターで蓋が閉まる皿



磁気センサー付き手袋

フォーマルとインフォーマルの出会い

雑談に代表される、事前に予定されておらず偶発的に生じるコミュニケーションは「インフォーマル・コミュニケーション」と呼ばれます。一方、会議に代表される、事前に開催日時や議題、参加者が決まっているものを「フォーマル・コミュニケーション」と呼びます。通常、これらが一緒に行われることはありません。しかし、両者それぞれに優れた部分があるので、それらの良いところどりをすることで、より実りある議論を実現できます。

Chatplexer：会議しながら雑談するメディア

いわゆるプレゼン形式のフォーマルな会議では、多くの聴衆がいても、発言できるのは発表者と質問者だけです。他の人々は、意見や質問があっても、思うように発言できません。知識共創の観点から、これは非常にもったいない状況です。Chatplexerは、口頭での議論の裏で同時にテキストでの議論や雑談を行うことを可能とし、さらに両者を結びつけることができるメディアです。参加者全員が、より濃密に意思疎通を行えるようになります。



Chatplexerを用いての発表の様子。聴衆は、聴衆用インタフェースを用いて、発表中にバックグラウンドで議論や情報交換を行う。発表終了後、発表者はChatplexerが自動抽出する重要チャット発言を見て、質疑応答に活かすことができる。

聴衆用インタフェース
通常のチャットに加え、
スライドに対する返信や、
発表者や質問者の発言などの
口頭での発言に対する返信を
行うことができる。



雑談の創造的側面を強化拡張することで、我々の日常活動をもっと創造的なものにできます。